

岡山醫學會第392回通常會

同會は本月17日午後4時より岡山醫科大學に於て開會す。緒方庶務主幹開會を報じ直ちに次の講演を開始す

1. 急性蟲様突起炎及び膽道疾患に於ける腸球菌の研究

岡山醫科大學津田外科教室

佐藤次文君

1886年 Escherich が小兒の腸内に連鎖状球菌を認め *Micrococcus ovalis* と命名して以來この球菌の研究は多くの學者によりなされ、Thiercelin は *Enterokokken* と命名し Andrews 等は *Streptococcus faecalis* と云へり。然るに Gohar 等は腸内に棲息する *Streptokokken* は必しも單一なるものに非ず、其の生物學的性狀、型態等は様々にして其の中に比較的性狀が一定せるもの2を選び Typus A 及び Typus B の2型に分てり。而して所謂 *Enterokokken* は pleomorphic *Streptokokken* Typus B に屬するものにして、寒天培養基上によく發育し灰白色の聚落を作り、「エスクリン」を黒變せしめ、膽汁、温度に抵抗強く、「ラクムスミルヒ」を赤變せしむる等の性狀を擧げた

り。私は蟲様突起炎及び膽道疾患に於て腸球菌を分離培養し其の生物學的性狀、其の病原的意義等に就き種々研究し、2,3の興味ある事實に遭遇せり。

然るに蟲様突起炎に於ける腸球菌に就ては私は曾て岡山醫學會及び日本外科學會に於て報告せるを以て、ここに改めて再録するを避け、未だ發表せざりし膽道疾患に於ける腸球菌に就て簡単に敘説せんとするものなり。

蟲様突起と膽囊とは相似たるところあり、即ち

蟲様突起が盲腸に聯絡せる一盲管なるに對し膽囊も十二指腸に聯絡せる一盲管と考へ得べし。然れども大なる相違は蟲様突起内には常に *Dickdarmflora* が存在し正常なる場合に於ても腸球菌等を培養し得るに拘らず、膽囊内は通常無菌にして腸球菌、大腸菌其の他の細菌の培養し得るは主として膽道炎症を合併せる時なり。私は膽道疾患17例の中5例の腸球菌と大腸菌の混合培養をなせり。而して興味ありしは5例とも膽石症にして膽囊内に數箇の濕潤なる膽石を有せることなり。私は蟲様突起炎に於ける腸球菌の條に於て腸球菌培養率は糞石又は糞塊ある場合に多數にして腸球菌は糞石の周圍に於て良く繁殖するものなりと述べたるが、私は膽石も糞石と同様なる關係にあり、其の周圍に腸球菌が繁殖し、比較的長く其の生存力を保てるものと思ふ。

次に私は犬の膽囊を用ひて次の如き實驗的研究を行ひたり。即ち犬の膽囊内に腸球菌、大腸菌等の一定量を注入し其の膽囊壁に及ぼす影響を見んとし、膽囊管頸部を結紮せざる場合と結紮せる場合の2様に就て行へり。

先づ膽囊管頸部を結紮せざる場合に就て述ぶるに、この場合は次の點を考慮せざるべからず。注入すべきは細菌は其の最も毒力の強き時期を選ぶべきで私は急性蟲様突起炎に於ける蟲様突起内より分離せる後直に純培養し其の1 mg. öse を1 cc の生理的食鹽水に浮遊せしめ0.5 cc 乃至1 cc を膽囊内に注入せり。注入針は最も細小なるものを選び膽囊内に直接又は肝臓を通して膽囊内に穿刺注入せり。而して3日乃至10日を經過せる後膽囊を剔出し其の内容の細菌培養をなすと同時に膽囊壁の組織的検査を行へり。膽囊壁は注入針穿刺部

の近邊に於て穿刺による器械的變化を受くるを以て私は検査すべき部も注入針穿刺部の最も遠隔部即ち對向部を選びたり。

先づ腸球菌を注入せる場合を述ぶるに、この際は對照例(食鹽水を注入せるもの)に比較して殆ど變化が見られず、稍々粘膜下層の充血を起せるのを認むる程度なりき。然るに大腸菌又は大腸菌及び腸球菌の混合注入の場合に於ては粘膜の軽度の剝離、粘膜下層の軽度の細胞滲潤、血管充盈等が見られて腸球菌注入の場合に比し稍々強き炎症的變化を見たり。

次に膽囊頸部を結紮せる場合を考ふるに、この場合は次の如き結紮による器械的又は生化學的變化を見るものなり。即ち膽囊内胆汁は漸次其の内容水分を吸収され濃厚となり、其の成分たる胆汁酸鹽等の濃度を増加せしむるものなり。Aronsohnによれば胆汁酸鹽を膽囊内に注入する時は膽囊炎を惹起せしむといふ。即ち彼の云ふ如くんば頸部結紮により胆汁酸鹽の比較的濃度を増し膽囊は既にこれによりて炎症的變化を受くるものなるべし。尙ほ膽囊頸部結紮時に膽囊に至る血管は避けたりとはいへ全く其の血流障礙を除外することを得ず。

以上の如き理由により膽囊は既に細菌注入前に於て或る程度非細菌性炎症的變化を受くるものと思せざるべからず。私は單に頸部を結紮せる場合及び食鹽水を注入して頸部を結紮せる場合に於て膽囊壁を見るに、膽囊壁は肥厚し、粘膜下層の細胞滲潤、充血若しくは溢血等が見られたり。

次に腸球菌を注入せる場合を見るに、對照例と比較して殆ど差異は認められず。而して特筆すべきは腸球菌を注入せる場合膽囊頸部を結紮せる場合と否とに拘らず内容の細菌學的検査により腸球菌を培養したるものにして、これは腸球菌が10%又は20%の胆汁に對して抵抗強きのみならず、正

常胆汁又は頸部結紮によりて甚だ濃厚となれる胆汁中に於ても抵抗あることを物語るものなり。

次に大腸菌又は大腸菌と腸球菌の混合注入の場合に就て述ぶるに、この際は膽囊壁全層の肥厚著明の粘膜下層の細胞滲潤、充血、溢血等が見られて、大腸菌の膽囊壁に及ぼす變化は腸球菌のそれに比して稍々強きを見たり。尙ほ私は腸球菌と大腸菌の混合注入の場合に明かに化膿性膽囊炎を起せる1例を見、其の膽囊壁の組織的變化も甚だ著明なりき。

以上の如く大腸菌は腸球菌に比し膽囊に及ぼす影響は稍々強きを認めたるが私は腸球菌の毒力を全く否定するものに非ず。何となれば大腸菌は培養後直ちに其の一定量を取りて毒力検査に使用し得るも、腸球菌の培養基上の發育微弱なるを以て更に尙ほ1—2回の純培養を重ねざるべからず。而してこの間に於て毒力の自然的低下は免れざるものなり。

2. 「ビタミンA」比較的缺乏食時に於ける眼網膜暗適應曲線及び「クロナキシー」に就て

岡山醫科大學生理學教室

喜多島慎一君

從來「ビタミンA」缺乏症(Avitaminose)の臨牀的所見として夜盲症、結膜乾燥症、角膜潰瘍等が擧げられてゐるが最近「ビタミンA」減少症(Hypovitaminose)の際に起る眼網膜の暗適應性的變化を臨牀的診斷に用ひんとしこの目的の爲に考案されたAdaptometer Biophotometerによる測定報告がなされてゐる。併し之は未だ成積の一致を見ず又健康者が「ビタミンA」の比較的缺乏食を摂りたる場合果してHypovitaminoseの症狀を認め得るや否やの實驗報告は甚だ少ない。本實驗に於ては35歳男、29歳女、15歳男に

就き比較的嚴格に「ビタミンA」減少食を嚮らしめたる際明適應せる一眼と暗適應せる他眼を同時的に比較する方法で其の相對的暗適應性進行度を検査した所、3乃至4週間で明かに暗適應性の低下を認め之に「ビタミンA」2萬國際單位以上を投與する時は1乃至2週間で暗適應性の復舊するのを認めた。

又本實驗と並行して電氣閃光現象(Electrisches Sehen)を各期間に就き實驗し刺激の強度と作用時間との關係を示す曲線を比較吟味した所暗適應時の「レオパーセ」は明適應時に比し常に上昇し「ビタミンA」減少食時には其の差少なく「ヴィ

タミンA」を多量に嚮りたる場合は其の差特に著明なるを認め而して「クロナキシー」は常に殆ど變化無く又この曲線は良く Weisse-Hoorweg の式に一致することを知り得た。以上暗適應時の「レオパーセ」の上昇及び之が「ビタミンA」の消長と相關係を有するものの如き結果等は電氣閃光現象の刺激感受部位と視器の末梢部たる錐體桿狀體とが無關係では無いことを示すものであらう。

右終りて午後5時15分閉會す、來會者30餘名なり。

◎岡山醫學會第393回通常會

同會は本年12月15日午後4時より岡山醫科大學に於て開會す